

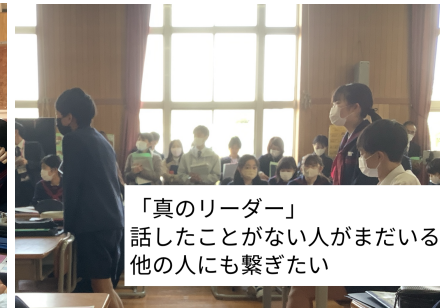
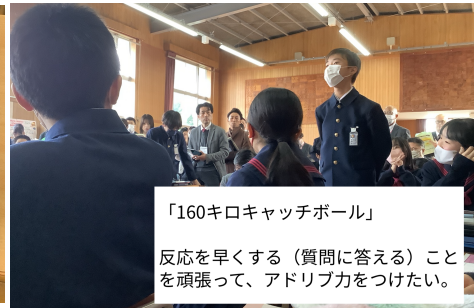
めあて「なりたい『本当の中学生』の姿に向けて、付けたい力やがんばることを決めよう」

〈なりたい『本当の中学生』(4月の自分)について考えよう〉

本時は、なりたい「本当の中学生(小学校を卒業したからなるただの中学生ではない)」の姿に向けて付けたい力や具体的な行動目標について、自己の課題と照らし合わせながら、マンダラートを使って考えを広げたり、友達とアドバイスし合ったりした。自分に合った解決方法を意思決定し、目標達成のために自己の良さを生かしながらか主体的に行動しようとする気持ちを高める時間となった。



児童は、「本当の中学生」になるために、自分がクリアしたい課題や得意だけどもっと高めたい内容の“価値語”に関する行動目標を自分で考え、「私の選んだ価値語はこれなんだけど、この行動どう思う?」「この価値語だったら、『日頃から相手の意見に良いところを見つける』とかにしたら良いんじゃない?」等と友達に相談やアドバイスをして、マンダラートに今日時点で書けることを書き込んでいた。中間指導では困りを共有し、全体で解決した内容を参考に自分のマンダラートに生かしていた。



指導・講評では、文部科学省初等中等教育課程課の和久井調査官から、「今の時期にふさわしい題材であることや担任の先生の事前の計画が素晴らしかった。板書計画や『振り返り』を活用した意図的指名等、担任の先生のねらいや思いがすごく伝わってきた。」「自分のマンダラートについてグループで話す時に、グループ内に新しく話す人がいて、再度説明するための時間がかかったり温度差が生まれたりしていた。自分の思いや行動目標を知っているメンバーに長期間かけて相談やアドバイスをしたり、もう少し話を共有してから本時の活動をしたりするという方法もある。」等のご指導をいただいた。

